

8月上旬の萩市沖の平均水温（表層）が観測史上最高値を記録しました！

山口県水産研究センターでは、萩市の本土と見島を結ぶ定期船（現：ゆりや）の協力を得て、1964年よりほぼ毎日萩市沖北北西15海里地点で表層水温の観測を継続しています。

2024年、山口県萩市沖の表層水温は、8月3日から8日間連続して29°C台の高水温が続いたため（図1）、8月上旬の平均水温は29.32°Cで、平年に比べ2.61°C高めとなり、観測を開始して以来の最高値を記録しました。

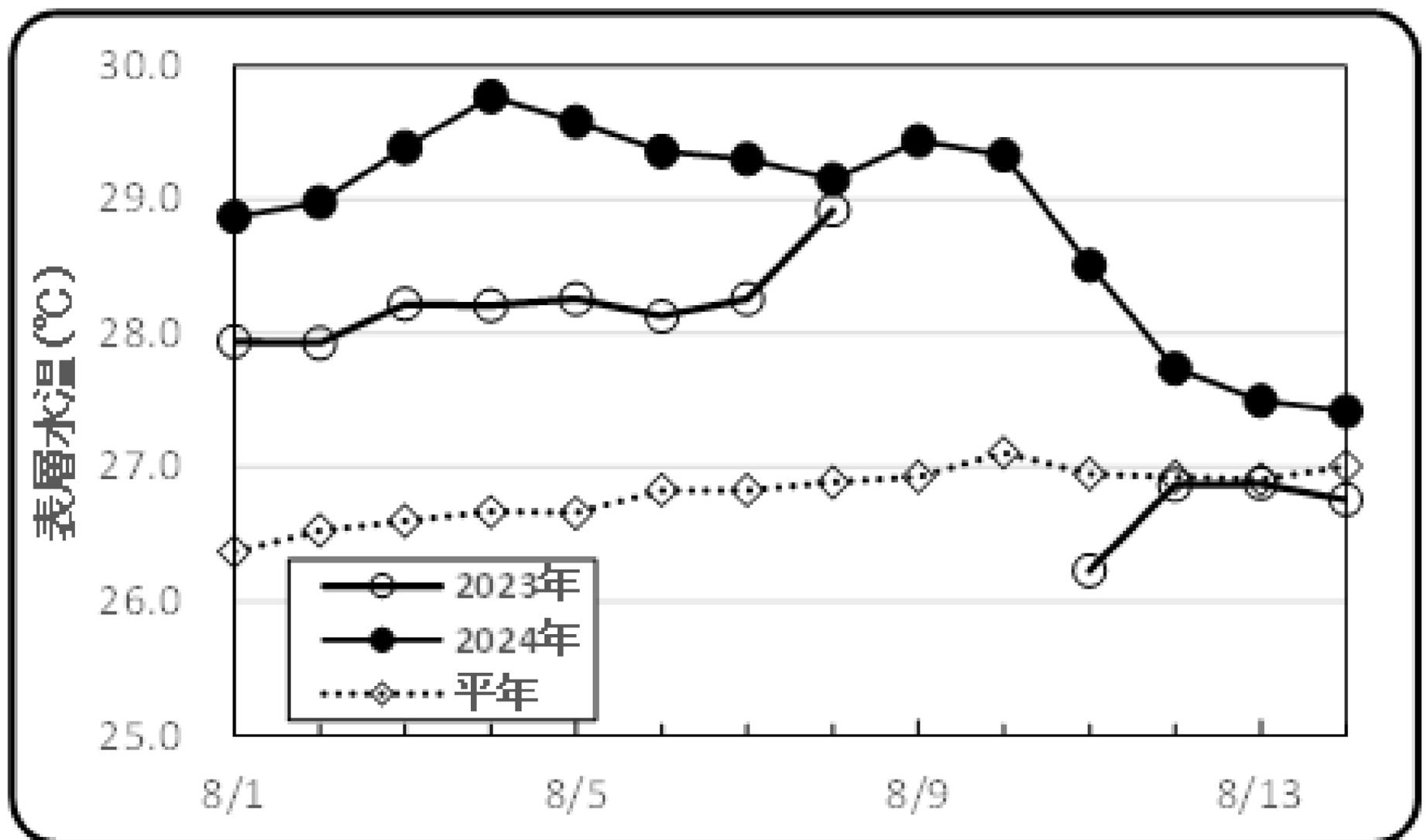


図1 萩市沖表層水温の日変化（平年は1991～2020年の平均値、8/3～8/10各日の水温は各日の観測史上最高水温）

○高水温に伴う漁業等への影響について

- 高水温の影響で養殖魚や活魚水槽の魚が斃死したり、漁獲物の鮮度低下が速くなる心配がありますので、魚類の管理や漁獲物の鮮度保持には十分注意が必要です。
- また、過去の例では、2013年8月中旬から下旬に29°C以上の高水温が19日間継続し、コンブ科の海藻であるかじめ類（図2）が枯死し流出する現象が発生したことから、今夏もかじめ類の繁茂状況を注視する必要があります。
- 長門市沿岸の定置網では、インドー太平洋の温帯～熱帯域に生息し、日本海への出現が少ないとされるスマ（体長45～49cm、図3）が、8月3日から漁獲され始め、8月14日までに1.6トン漁獲されました。高水温のため、本種が日本海に来遊しやすい環境になっていると推察されます。



図2 かじめ類（カジメ、アラメ、クロメなどが含まれる。藻場を形成し、あわび・サザエなどの重要な餌となる。）



図3 長門市沿岸の定置網で漁獲されたスマ（カツオの近縁種で胸鰭下方の小黑斑が特徴）